

北本市に在住する外国人への対応について

令和4年度から令和7年5月末における北本市内在住の外国人の方の人口推移は？

令和4年度末：804人
令和5年度末：977人
令和6年度末：1,107人
令和7年5月末：1,140人

転入時において、日本語のわからない外国人(ご本人)たちは窓口処理をどうしているのか？

転入時において、手続きに来られる外国人の多くは、日本語をおおむね理解できる状況でございます。日本語がわからない外国人は、勤務される会社の関係者と一緒に来庁されたり、また、ご自身のスマートフォンの翻訳アプリを使って、日本語に変換しながら、手続きを行っております。

市役所での応対上は格段の問題もないようですが、それでは子どもさんはいかがでしょうか？小学生・中学生の学齢期のお子さんはどうされているのでしょうか？

外国籍の子ども達への日本語指導や、学校生活への適応支援を充実させることは、他の児童生徒と同じように教育を受ける機会を保障するために必要であると考えます。学齢期の外国籍の子ども達の転入があった際には、市教育委員会及び各学校において、保護者や本人と事前に面談等を実施し、状況を把握することとしています。年長児童の外国籍の子どもについては、就学児健診の際に把握しております。未就学児童については、幼・保・小連携に係る連絡協議会や幼稚園・認定こども園・保育園（所）における保育公開等を利用して把握することに努めております。

各学校では、外国籍の子供へ具体的にどのようにしているのか？

現在、本市に在籍している外国籍の児童生徒は簡単な日本語を理解しており、全く日本語が分からないという児童生徒はおりません。

外国籍の児童生徒への具体的支援としては、担任や教科担当が簡単な外国語で指示をし、学習活動に参加できるようにしています。その他、双方向の自動通訳機「ポケット」を活用して児童生徒が発言したり、母国語で書いた文章を翻訳して発表したりする支援を行っております。

外国籍の子どもも、他の子ども達と同じ教室で学校生活を送り、授業中、休み時間等あらゆる機会に日本語でのやり取りや会話を通して、日本語への理解を深めています。

過去に日本語がほとんど話せないで編入学した外国籍生徒がおりましたが、少しずつ日本語を習得し、本人が希望する県立高校へ進学した生徒も複数名おりました。

以前は国際交流ラウンジの職員を学校に招聘し、外国籍の生徒への支援を行っていただいていたましたが、今は地域の外国語が堪能な方が英語教育に携わっていただき、日本語支援にあたる際は学校応援団として登録し、活動保険に加入することで万が一のケガ等にも対応できるよう配慮しております。

《総括》子ども達の言語習得能力は、我々が心配するよりもはるかに進んでいるということが分かりました。現在では、学校応援団という組織（団体）があり、保険にも加入されて万が一のケガのフォローもされているようなので、安心致しました。

生きているだけで価値がある社会、何度でもやり直せる社会を構築するために



1 消費税は廃止！ 社会保険料を下げる

消費税は、庶民の負担が増え、格差が広がる悪税です。社会保険料も同じです。悪税をなくし、国のお金で、経済を底上げすることが最優先。

2 本物の安全保障 戦争ビジネスには加担しない

国民の安定雇用と衣食住を確保する。「武器輸出で儲ける」といった戦争ビジネスには加担しない。原発も即廃止。緊急事態条項などの憲法改正にも反対。

3 親ガチャ？ 国がやる！ 「子育ては自己責任」終了

子ども手当一律3万円/月、子どもの医療費 教育費無償化。奨学金チャラ。親も国が支える。安定した雇用、まともな給料のもとで、落ち着いて子育てできる状況を作る。

4 裏金ネコババ 許さない

自民が財界と癒着して裏金をネコババ。被災地・能登を見捨てる。そんな政権、ありえない。れいわの議員を増やし、状況を変えよう。

公式ホームページやSNS も
ごらんください！

公式ホームページ



ご寄附はこちらから



れいわ新選組は、皆さまからのご寄附をお願いしております。

